

(1) 論文等発表一覧

論文名	執筆者	掲載誌	抄録掲載頁
関節腔内注射による黄色ブドウ球菌集団感染事例 - 福岡県	財津裕一 ^{*1} , 堀川和美, 野田多美枝, 田代律子 ^{*2} *1 宗像保健福祉環境事務所 *2 田川保健福祉環境事務所	病原微生物検出情報, Vol.25 ,No.10 (2004.10)	P 99
Evaluation of Clastogenicity of Isoprothiolane and Pyroquilon Using The Mouse Micronuclei Test	O. Nagafuchi ^{*1} , K. Murakami, M. Ukita ^{*2} *1 千葉科学大学 *2 山口大学	Toxicol. Environ. Chem., 86, 99-102, 2004.	P 99
Association between chemical properties and oxidative damage due to nitorophenanthrenes and their related compounds in primary rat hepatocytes	Nobuyuki Sera, Hiroshi Tokiwa ^{*1} , Hideo Utsumi ^{*2} , Shigeki Sasaki ^{*2} , Kiyoshi Fukuhara ^{*3} and Naoki Miyata ^{*4} * 1 Kyushu Women's University * 2 Kyushu University * 3 National Institute of Health Science * 4 Naogoya City Universtiy	Polycyclic aromatic compounds, 24(4-5), 487-500, 2004.	P 99
甲状腺末を含有する健康食品中の3,3',5-トリヨードチロニン及びチロキシンのHPLC分析法	森田邦正, 毛利隆美, 中川礼子	福岡県保健環境研究所年報, 第31号, 61-65, 2004.	P 99
健康食品中のリオチロニンナトリウム及びレボチロキシナトリウムのHPLC分析法	森田邦正, 毛利隆美, 中川礼子	福岡県保健環境研究所年報, 第31号, 66-68, 2004.	P 100
ダイキシン類データベースの構築と汚染状況の解析	岩本真二, 松枝隆彦, 黒川陽一, 大野健治, 飛石和大, 桜木建治	環境化学, Vol.14, No.4, 805-815	P 100
Preparation of activated carbon fibers from polyvinyl chloride.	W.M.Qiao ^{*1} , S.H.Yoon ^{*1} , Y.Korai ^{*1} , I.Mochida ^{*1} , S.Inoue ^{*1} , T.Sakurai ^{*2} , T.Shimohara *1 九州大学 *2 リサイクル総合研究センター	Carbon, 42, 1327-1331, 2004.	P 100
Reaction of NO2 in air at room temperature with urea supported on pitch based activated carbon fiber.	N.Shirahama ^{*1} , I.Mochida ^{*1} ,Y.Korai ^{*1} , K.H.Choi ^{*1} , T.Enjoji ^{*2} , T.Shimohara, A.Yasutake ^{*3} *1 九州大学 *2 佐賀県工業技術センター *3 三菱重工 長崎研究所	Applied Catalysis B: Environmental, 52, 173-179, 2004.	P 100
採水用器材に由来する鉛汚染事例	石橋融子, 松尾 宏, 中村又善, 笹尾敦子, 上田 修* * 福岡県筑紫保健福祉環境事務所	福岡県保健環境研究所年報 第31号, 69-73, 2004.	P 101

論文名	執筆者	掲載誌	抄録掲載頁
Radon and Thoron Exposures for Cave Residents in Shanxi and Shaanxi Provinces	S.Tokonami * ¹ , Q.Sun * ² , S.Akiba * ³ , W.Zhuo * ¹ , M.Furukawa * ¹ , T.Ishikawa * ¹ , C.Hou * ² , S.Zhang * ² , Y.Narazaki, B.Ohji * ¹ , H.Yonehara * ¹ and Y.Yamada * ¹ *1 放射線医学総合研究所 *2 放射線防護研究所 *3 鹿児島大学	Radiation Research , 162, 390-396 , 2004 .	P 101
Association of manganese effluent with the application of fertilizer and manure on tea field	Yuko Ishibashi, Hiroshi Matsuo, Yoshiteru Baba, Yoshitaka Nagafuchi, Toshihiko Imato * ¹ , Tatemasa Hirata * ² * 1 Kyushu Unibersity * 2 Wakayama University	Water Research , 38, 2821-2826 , 2004 .	P 101
博多湾におけるマクロベントスを考慮した水質解析	熊谷博史, 山崎惟義* ¹ , 渡辺亮一* ¹ , 藤田健一* ² *1 福岡大学 *2 九州環境管理協会	環境工学研究論文集, 第41巻, 437-446, 2004 .	P 101
安定型産業廃棄物最終処分場の熱赤外線による監視手法の検討	土田大輔, 小宮哲平*, 中山裕文*, 高橋浩司, 宇都宮彬, 島岡隆行* * 九州大学	都市清掃, Vol.57, No.262, pp.588-595, 2004 .	P 102
竹炭を混合したコンクリートの水質浄化特性	土田大輔, 石橋融子, 徳永隆司* ¹ , 世利桂一* ² , 倉富伸一* ³ *1 福岡県リサイクル総合研究センター *2 福岡県工業技術センターインテリア研究所 *3 くら有限公司	全国環境研会誌, Vol.29, No.2, pp.102-106, 2004 .	P 102
土壌細菌叢評価法の構築 - 廃棄物処分場の硫化水素ガス発生対策のために -	谷口初美* ¹ , 福田和正* ¹ , 王 岩* ¹ , 山内和紀* ¹ , 市原剛志* ¹ , 水野康平* ² , 石松維世* ¹ , 世良暢之, 濱崎光宏, 高橋浩司, 堀川和美 *1 産業医科大学 *2 北九州工業高等専門学校	産業医科大学雑誌 26 (3) , 349-367 , 2004 .	P 102
計 (論文等発表一覧)	15 件		

(2) 発表論文抄録

1 関節腔内注射による黄色ブドウ球菌集団感染事例 - 福岡県

財津裕一^{*1}, 堀川和美, 野田多美枝, 田代律子^{*2}: 病原微生物検出情報, 25(10), 8-10, 2004.

2004年3月福岡県内の病院で, 変形性関節症患者に対する関節腔内注射により, 黄色ブドウ球菌の集団感染が発生した. 注射の準備及び施術に関与した医師及び看護師について調査した結果, 2名の看護師が準備した注射液を使用した患者のみが発症していることが判明した. さらに関係者の鼻腔, 手指等から検出された黄色ブドウ球菌と患者から検出された黄色ブドウ球菌についてパルスフィールドゲル電気泳動によるDNA解析を行なった. その結果, 2名の看護師がそれぞれ関与した患者とDNAパターンが一致していた. 疫学及び細菌学的調査の結果から, 関節腔内注射調整時に黄色ブドウ球菌が汚染したことが判明した. この治療は一般医療機関で広く行なわれており, 対象者も多く, 再発防止の参考とするため概要を報告した.

*1 宗像保健福祉環境事務所

*2 田川保健福祉環境事務所

2 Evaluation of Clastogenicity of Isoprothiolane and Pyroquilon Using The Mouse Micronuclei Test

O. Nagafuchi^{*1}, K. Murakami, M. Ukita^{*2}: Toxicol. Environ. Chem., 86, 99-102, 2004.

マウス末梢血小核試験を用いて, Isoprothiolane 及び Pyroquilon の遺伝子損傷性の有無を検討した. 用いた試料はこれらの化学物質の市販試薬, およびそれらを精製したものである. その結果, 市販試薬を投与したマウスでは, 末梢血中の小核を有する網状赤血球数が, コントロールと比較し有意に増加したのに対し, 精製した試料では, 小核を有する網状赤血球の増加は認められなかった. このことから, Isoprothiolane 及び Pyroquilon の遺伝子損傷性に関しては, この試験系では陰性であり, 毒性試験に用いる試料の純度は, できうる限り高純度のものを用いなければならないことが再確認された.

*1 千葉科学大学

*2 山口大学

3 Association between chemical properties and oxidative damage due to nitorophenanthrenes and their related compounds in primary rat hepatocytes

Nobuyuki Sera, Hiroshi Tokiwa^{*1}, Hideo Utsumi^{*2}, Shigeki Sasaki^{*2}, Kiyoshi Fukuhara^{*3} and Naoki Miyata^{*4}: Polycyclic aromatic compounds, 24(4-5), 487-500, 2004.

標的臓器が肺であることが明らかとなっている発がん物質ニトロフェナンスレン及びその誘導体をラット初代肝臓細胞に接種して酸化的損傷度を測定した. その結果, フェナンスレン誘導体による酸化的損傷度の指標の1つである8-hydroxydeoxyguanosine (8-OH-dG)の生成は, 1電子還元電位, 最低空軌道(LUMO)などの化学的データと関連を示した. このことから, フェナンスレン誘導体による8-OH-dGは置換しているニトロ基の還元的代謝のされやすさと相関することが示唆された.

*1 九州女子大学

*2 九州大学

*3 国立医薬品食品衛生研究所

*4 名古屋市立大学

4 甲状腺末を含有する健康食品中の3,3',5-トリヨードチロニン及びチロキシンのHPLC分析法

森田邦正, 毛利隆美, 中川礼子: 福岡県保健環境研究所年報, 第31号, 61-65, 2004.

逆相系的高速液体クロマトグラフを使って, 甲状腺末を含有する健康食品中の3,3',5-トリヨードチロニン及びチロキシンの分析法を検討した. 健康食品はメタノール及び水/メタノール(1:1)を用いて洗浄後, Pronaseを用いて加水分解した. 3,3',5-トリヨードチロニン及びチロキシンは2%アンモニア水メタノール溶液で抽出し, 固相抽出法(Bond Elut C18カートリッジ)を用いてクリーンアップした. 高速液体クロマトグラフはカラムにInertsil ODS-3 (4.6 x 150 mm, 5 µm)を, 移動相に水/メタノール/リン酸(500:500:1, v/v)を用い, 測定波長230 nmで分析した. 試料をメタノール及び水/メタノールを用いて洗浄することにより共存物質を効果的に除去することができた. また, Bond Elut C18カートリッジ処理することにより, さらに共存物質を除去することができた. 本法による健康食品からの3,3',5-トリヨードチロニン及びチロキシンの回収率は70~80%, 定量下限値は3,3',5-トリヨードチロニンが0.8 µg/g, チロキシンが1.4 µg/gであった.

5 健康食品中のリオチロニンナトリウム及びレボチロキシナトリウムの HPLC 分析法

森田邦正, 毛利隆美, 中川礼子: 福岡県保健環境研究所年報, 第31号, 66-68, 2004.

逆相系の高速液体クロマトグラフを使って, 健康食品中のリオチロニンナトリウム及びレボチロキシナトリウムの分析法を検討した. 健康食品中のリオチロニンナトリウム及びレボチロキシナトリウムは 0.1 % 酢酸メタノールを用いて抽出し, 固相抽出法(Bond Elut Certify カートリッジ)を用いて, 2 % アンモニア水-メタノール溶液でクリーンアップした. 高速液体クロマトグラフはカラムに Inertsil ODS-3 (4.6 x 150 mm, 5 μm) を, 移動相に水 / アセトニトリル / 酢酸 (650:350:5, v/v) を用い, 測定波長 230 nm で分析した. 試料抽出液を Bond Elut Certify カートリッジ処理することにより効果的に共存物質を除去することができた. 本法による健康食品からのリオチロニンナトリウム及びレボチロキシナトリウムの回収率は 77 ~ 82%, 定量下限値は リオチロニンナトリウムが 0.5 μg/g, レボチロキシナトリウムが 0.7 μg/g であった.

6 ダイオキシン類データベースの構築と汚染状況の解析

岩本真二, 松枝隆彦, 黒川陽一, 大野健治, 飛石和大, 桜木建治: 環境化学, Vol. 14, No. 4, 805-815, 2004.

ダイオキシン類のデータを集約し, 解析するためにデータベースを構築した. データベースは, 採取地点, 採取日時などの付帯項目, 118 異性体項目, 同族体項目, TEQ 異性体濃度などで構成されており, 過去の調査で分析された 700 サンプル以上が収められている. このデータベースから解析したいグループを抜き出し, 異性体パターン, 同族体パターン, 選択した成分のレーダーチャート, TEQ 構成などのグラフを作成する. また, ダイオキシン類の土壌, 大気などの汚染地域分布をみるために県地図の上に円グラフで表示し, その違いを観察する. また, 統計ソフト, ケミカルマスバランス (CMB) 計算ソフトを使い, 発生源種の推定や寄与率の予測計算を行う. このデータベースを基に, 重回帰分析, CMB 法で発生源の予測を行ったところ, おおむね似た結果となり, 大気では廃棄物焼却炉が 60 % 以上, 土壌・河川水では CNP, PCP の農薬が 60 % 以上寄与していることが推定できた.

7 Preparation of activated carbon fibers from polyvinyl chloride

W.M.Qiao ^{*1}, S.H.Yoon ^{*1}, Y.Korai ^{*1}, I.Mochida ^{*1}, S. Inoue ^{*1}, T.Sakurai ^{*2}, T.Shimohara: Carbon, 42, 1327-1331, 2004.

廃ポリ塩化ビニル(PVC)プラスチックは塩素成分を含むため, 焼却時にダイオキシンを発生すると言われている. 本研究では, PVC を 2 段階加熱処理することで, ピッチから効果的に脱塩素化する方法を検討した. その結果, 脱塩素化した軟化点 218 のピッチを調整した. 調整したピッチは紡糸し, 炭化, 賦活の処理を経て, 高活性炭素繊維(ACF)を製造した. 製造した ACF について SO₂ の浄化能について予備試験した結果, 従来の ACF に匹敵する浄化能を有することが分かった.

*1 九州大学

*2 リサイクル総合研究センター

8 Reaction of NO₂ in air at room temperature with urea supported on pitch based activated carbon fiber.

N. Shirahama ^{*1}, I. Mochida ^{*1}, Y. Korai ^{*1}, K. H. Choi ^{*1}, T. Enjoji ^{*2}, T. Shimohara, A. Yasutake ^{*3}: Applied Catalysis B: Environmental, 52, 173-179, 2004.

戸外大気における NO₂ の還元反応について検討するために, 室温で, 尿素を担持した ACF に 50 ~ 1000ppm の NO₂ を通気する実験を行なった. その結果, NO₂ は還元, 分解され, 窒素ガスに変換されることが確認できた. ACF 上に担持した尿素は, 僅かに消費される反応であることが分かった. この時, 導入するガス中の酸素濃度は, NO₂ の還元, 分解能に影響を及ぼしていなかった. 相対湿度の上昇は, ACF 上で NO₂ を硝酸に酸化させやすくするため, NO₂ の還元, 分解の寿命を低下させることが分かった.

*1 九州大学

*2 佐賀県工業技術センター

*3 三菱重工 長崎研究所

9 採水用器材に由来する鉛汚染事例

石橋融子, 松尾 宏, 中村又善, 笹尾敦子, 上田修*: 福岡県保健環境研究所年報第31号, 69-73, 2004.

海水試料から環境基準値(0.01mg/l)を超える鉛が検出された。鉛が基準値を超過した原因を検討した結果, 採水を行った委託業者が使用していたハイロート採水器の台座の中のおもり(鉛が使用されていた)が汚染源であることがわかった。

* 福岡県筑紫保健福祉環境事務所

10 Radon and Thoron Exposures for Cave Residents in Shanxi and Shaanxi Provinces

S.Tokonami^{*1}, Q.Sun^{*2}, S.Akiba^{*33}, W.Zhuo^{*1}, M.Furukawa^{*1}, T.Ishikawa^{*1}, C.Hou^{*2}, S.Zhang^{*2}, Y.Narazaki, B.Ohji^{*1}, H.Yonehara^{*1} and Y.Yamada^{*1}; , Radiation Research, 162, 390-396, 2004.

高放射線地域である中国Shanxi及び Shaanxi省にある黄土台地の202戸の洞窟住居にて自然放射線の測定を行った。室内ラドン濃度は19~195 Bq m⁻³で,幾何平均値は64 Bq m⁻³,室内トロン濃度は10 ~ 865 Bq m⁻³で,幾何平均値は153 Bq m⁻³であった。室内の平衡等価トロン濃度は0.3 ~ 4.9 Bq m⁻³で,幾何平均値は1.6 Bq m⁻³であった。空間線量率の平均値は,室内で140nGy h⁻¹,室外で110nGy h⁻¹であった。米国National Cancer Instituteの調査では当地の肺ガンリスクをトロンは測定せずに,ラドンレベルの上昇に伴い増加したと結論付けているが,今回の研究からトロンの影響が大きく,その重要性が軽く見積もられた可能性を指摘した。

*1 放射線医学総合研究所

*2 放射線防護研究所

*3 鹿児島大学

11 Association of manganese effluent with the application of fertilizer and manure on tea field

Yuko Ishibashi, Hiroshi Matsuo, Yoshiteru Baba, Yoshitaka Nagafuchi, Toshihiko Imato^{*1} and Tatemasa Hirata^{*2}:Water Research 38, 2821-2826, 2004.

茶畑を起源とする湧水でマンガン濃度が1.1-3.5 mg/l と高い値を示した。茶畑からのマンガン流出量は, 38,000g/ha (1997年6月-1998年5月), 4100g/ha (1998年6月-1999年5月)と推計された。また, 梅雨期にマンガン流出量が多かった理由は, 梅雨期前に肥料を施肥することにより土壌が酸性化し, 土壌中の溶解性マンガンが増加するためであると考えられた。

*1 九州大学

*2 和歌山大学

12 博多湾におけるマクロベントスを考慮した水質解析

熊谷博史, 山崎惟義^{*1}, 渡辺亮一^{*1}, 藤田健一^{*2}

博多湾湾奥で優占種であるホトトギスガイをマクロベントスコンパートメントとして組み込んだ生態系モデルを作成した。本モデルはマクロベントスを関数のみとして扱っている従来のモデルよりも, 貧酸素水塊の挙動を詳細に把握することが可能であった。このことは, 底質中に生息しているマクロベントスは, 貧酸素水塊の挙動を予測する生態系モデルを構築する際の無視できない重要な因子であることを示唆していた。

*1 福岡大学

*2 九州環境管理協会

13 安定型産業廃棄物最終処分場の熱赤外線による監視手法の検討

土田大輔，小宮哲平*，中山裕文*，高橋浩司，宇都宮彬，島岡隆行*：都市清掃，Vol.57，No.262，pp.588-595，2004．

安定型産業廃棄物最終処分場において，混入した有機物に起因する発熱現象を検出することを目的として，熱赤外線画像装置を用いた地表面温度調査を行った．まず，屋外予備実験を行い，熱赤外線画像の撮影条件を検討した結果，地表面温度の調査に適した時間帯は夜明け前であることが明らかになった．次に，安定型処分場に立ち入り，熱赤外線画像の撮影を行った結果，埋立地内部の有機物分解反応による発熱箇所を，地表面温度分布から推測することが可能であった．また，ヘリコプターにより処分場全体を上空から撮影する上空調査を行ったが，日射の影響が大きかった．これらの結果から，熱赤外線画像装置による調査方法が，処分場における有機物分解を監視する方法として有効であることが明らかとなった．

* 九州大学

14 竹炭を混合したコンクリートの水質浄化特性

土田大輔，石橋融子，徳永隆司*¹，世利桂一*²，倉富伸一*³：全国環境研会誌，Vol.29，No.2，pp.102-106，2004．

竹炭を混合した河川護岸用コンクリートブロックを作製した．このコンクリートブロックの水質浄化特性を，コンクリートブロックから溶出する溶解性物質と，コンクリートブロック表面に付着した微生物による有機物分解能の両面から考察した．コンクリート試験片による室内での浸漬実験の結果，竹炭混合コンクリートからは，竹炭由来のカリウムイオンや，使用した特殊セメント由来のアルミニウムイオンなどが，竹炭の入っていない普通コンクリートに比べて多く溶出した．また竹炭混合コンクリートは，普通コンクリートに比べ，六価クロムの溶出が少なく，吸着実験の結果，竹炭に吸着されたことがわかった．試験片を酸化池に3ヶ月間沈めて微生物を付着させた結果，普通コンクリートの約3倍量の微生物が付着した．この付着微生物量の違いにより，竹炭混合コンクリートの BOD 除去速度は，普通コンクリートより大きかった．

*¹ 福岡県リサイクル総合研究センター

*² 福岡県工業技術センターインテリア研究所

*³ くら有限会社

15 土壌細菌叢評価法の構築 - 廃棄物処分場の硫化水素ガス発生対策のために -

谷口初美*¹，福田和正*¹，王 岩*¹，山内和紀*¹，市原剛志*¹，水野康平*²，石松維世*¹，世良暢之，濱崎光宏，高橋浩司，堀川和美：産業医科大学雑誌，26 (3)，349-367，2004．

廃棄物処分場や不法投棄現場においてガス発生が多発している．硫化水素ガス発生予測の基礎となる土壌細菌叢の動態を量的，質的に評価するための遺伝子工学的検査法を構築することを目的に，従来の染色法，培養法による検証とともに，実験手法の確立を行った．硫化水素ガス発生に關与するイオウの酸化または還元菌群の頻度を調べた結果，不法投棄現場では無芽胞硫酸還元菌とイオウ酸化細菌群が高頻度に検出され，廃棄物処分場では有芽胞硫酸還元菌や *Clostridium* 属菌が多く検出された．遺伝子工学的検査法が土壌の微生物叢評価および処分場のガス発生予知に有用であることが示唆された．

*¹ 産業医科大学

*² 北九州工業高等専門学校

(3) 学会等口頭発表一覧

国際学会

演 題 名	発 表 者	学会名 (場所), 年月日
Application of solvent cut large volume (SCLV) injection system using narrow-bore column to dioxins analysis in human blood	Kazuhiro Tobiishi, Takashi Todaka, Hironori Hirakawa, Tsuguhide Hori and Takao Iida	24 th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs (Berlin, Germany), September 6-10, 2004.
Development of database system for dioxins and its application to pollution analysis of dioxins in the environment	Takahiko Matsueda, Shinji Iwamoto, Naoko Kita, Kenji Ohno, Youichi Kurokawa, Kazuhiro Tobiishi, Daisuke Yasutake and Kenji Sakuragi	China-Japan Joint symposium on Environmental Chemistry (Beijing, China), October 21-23, 2004.
Comparison of accelerated solvent extraction and standard shaking extraction for determination of dioxins in foods	Tsuguhide Hori, Kazuhiro Tobiishi, Reiko Nakagawa, Takao Iida, Tomoaki Tsutsumi*, Kumiko Sasaki* * National Institute of Health Sciences	24 th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs (Berlin, Germany), September 6-10, 2004.
Levels of Polybrominated Diphenyl-Ethers and Polybrominated Dioxins in Fish, Total Diet Study Food Groups and Japanese Meals	Yuki Ashizuka, Reiko Nakagawa, Tsuguhide Hori, Kazuhiro Tobiishi and Takao Iida	24 th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs(Berlin, Germany), September 6-10, 2004.
Follow-up survey of dioxins and related chemicals in the blood of Yusho patients in 2002	Takao Iida, Hironori Hirakawa, Tsuguhide Hori, Takahiko Matsueda, Kazuhiro Tobiishi, Reiko Nakagawa, Takashi Todaka * ¹ and Masutaka Furue * ² * ¹ Japan Food Hygiene Association * ² Kyushu University	24 th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs(Berlin, Germany), September 6-10, 2004.
Concentration and distribution of dioxins and related compounds in various human organs	Takao Iida, Takashi Todaka * ¹ , Hironori Hirakawa, Tsuguhide Hori, Kazuhiro Tobiishi, Takahiko Matsueda, Shau Watanabe * ² and Taketo Yamada * ³ * ¹ Japan Food Hygiene Association * ² Tokyo University of Agriculture * ³ Keio University	24 th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs(Berlin, Germany), September 6-10, 2004.
Inter-laboratory calibration study of dioxins in human blood samples	Takao Iida, Takashi Todaka * , Hironori Hirakawa, Tsuguhide Hori, Kazuhiro Tobiishi, Reiko Nakagawa and Takahiko Matsueda * Japan Food Hygiene Association	China-Japan Joint Symposium on Environmental Chemistry(Beijing,China) October 20-22, 2004.
計 (国際学会)	7 件	

国内学会（全国）

演 題 名	発 表 者	学会名（場所），年月日
油症患者追跡検診の平成14年度全国集計結果報告及び油症患者データベース CD の配付について	片岡恭一郎，甲原隆矢，小野塚大介，高山浩樹	平成16年度厚生労働省全国油症治療研究班会議（福岡市），平成16年6月18日
福岡県の高死亡率地域と低死亡率地域における生活習慣等調査結果について	片岡恭一郎，小野塚大介，吉村健清	第18回公衆衛生情報研究協議会研究会（和光市），平成17年2月18日
公衆衛生医師の確保方策と公衆衛生の向上に向けて - よりよき公衆衛生医師の養成 -	吉村健清	第63回日本公衆衛生学会総会（松江市），平成16年10月28日
最近話題の新興・再興感染症における衛生学・公衆衛生学者の果たす役割「県からの視点より」	吉村健清，小野塚大介，片岡恭一郎	第75回日本衛生学会（新潟市），平成17年3月29日
高活性炭素繊維を用いた環境大気浄化に関する研究（9）道路沿道における NO，NO ₂ 浄化試験 - ACF 種，採気流速，温湿度との関係 -	新谷俊二，板垣成泰，下原孝章	第45回大気環境学会年会（秋田市），平成16年10月20-22日
廃棄物処分場における硫酸還元菌の検出培地の検討	濱崎光宏，堀川和美，世良暢之，高橋浩司，石黒靖尚，宇都宮彬	第56回水環境学会（千葉市），平成17年3月18日
<i>eaeA</i> 遺伝子を検出した大腸菌 O20による食中毒事例	村上光一，長野英俊 ^{*1} ，濱崎光宏，堀川和美，石黒靖尚，高田則子 ^{*2} ，梅崎誠治 ^{*2} *1 田川保健福祉環境事務所 *2 生活衛生課	第63回日本公衆衛生学会総会（松江市），平成16年10月29日
緑黄色野菜による8-OH-dG の抑制効果	世良暢之，福原 潔 ^{*1} ，常盤 寛 ^{*2} ，内海英雄 ^{*3} ，佐々木茂貴 ^{*3} ，中西洋一 ^{*3} ，宮田直樹 ^{*4} ，嵯峨井勝 ^{*5} *1 国立医薬品食品衛生研究所 *2 九州女子大学 *3 九州大学 *4 名古屋市立大学 *5 青森県立保健大学	日本環境変異原学会第33回大会及び日本動物実験代替法学会第18回大会（長崎市），平成16年12月1日

演 題 名	発 表 者	学会名(場所), 年月日
人体臓器中のダイオキシン類の分布	戸高 尊 ^{*1} , 平川博仙, 堀 就英, 飛石和大, 松枝隆彦, 渡辺 昌 ^{*2} , 山田健人 ^{*3} *1 日本食品衛生協会 *2 東京農業大学 *3 慶応義塾大学	第13回日本環境化学討論会(静岡市), 平成16年7月7日-9日
食品中のテトラプロモビスフェノール A(TBBPA) 分析法の検討	芦塚由紀, 中川礼子, 堀 就英, 飛石和大, 飯田隆雄	第41回全国衛生化学技術協議会年会(甲府市), 平成16年11月18日-19日
食品における臭素系難燃剤の分析	芦塚由紀, 中川礼子, 堀 就英, 飛石和大, 飯田隆雄	環境ホルモン学会第7回研究発表会(名古屋市), 平成16年12月14日-15日
Follow-up survey of dioxins concentration in the blood of Yusho patients in 2002-2003	戸高 尊 ^{*1} , 平川博仙, 堀 就英, 飛石和大, 飯田隆雄, 古江増隆 ^{*2} *1 日本食品衛生協会 *2 九州大学	環境ホルモン学会第7回研究発表会(名古屋市), 平成16年12月14日-15日
The levels of PCDDs, PCDFs, Non-ortho PCBs and Mono-ortho PCBs in the blood of pregnant women	平川博仙, 戸高 尊 ^{*1} , 堀 就英, 飛石和大, 飯田隆雄, 岸 玲子 ^{*2} , 佐田文宏 ^{*2} , 西条泰明 ^{*2} , 加藤静恵 ^{*2} , 中島そのみ ^{*2} , 佐々木成子 ^{*2} , 鶴野安希子 ^{*2} , 近藤朋子 ^{*2} , 森ゆうこ ^{*2} *1 日本食品衛生協会 *2 北海道大学	環境ホルモン学会第7回研究発表会(名古屋市), 平成16年12月14日-15日
食品における臭素化ジフェニルエーテル及び臭素化ダイオキシン分析	中川礼子, 芦塚由紀, 堀 就英, 飛石和大, 飯田隆雄	日本食品衛生学会第88回学術講演会(広島市), 平成16年11月11-12日
高活性炭素繊維を導入した通気性遮音壁の窒素酸化物除去効果について - 数値モデルによる検討 -	東海林孝幸*, 北田敏廣*, 下原孝章 * 豊橋技術科学大学	土木学会第12回地球環境シンポジウム(名古屋市), 平成16年8月2日-3日
高活性炭素繊維を用いた環境大気浄化に関する研究(8) - 還元剤担持法による NO 浄化技術 -	下原孝章, 力 寿雄, 板垣成泰, 新谷俊二	第45回大気環境学会年会(秋田市), 平成16年10月20日-22日
高活性炭素繊維を用いた沿道排ガス削減技術に関する調査	下原孝章	環境改善調査研究成果発表会(新宿区), 平成16年6月28日

演 題 名	発 表 者	学会名(場所), 年月日
高活性炭素繊維を用いた環境 大気浄化に関する研究(10) - 地下駐車場におけるNOx浄 化のための実証化予備試験 -	板垣成泰, 力 寿雄, 新谷俊二, 下原孝章, 高橋洋子	第45回大気環境学会年会(秋田 市), 平成16年10月20日-22日
有明海に流入する筑後川及び 矢部川の降雨時負荷量調査	田中義人, 熊谷博史, 松尾 宏, 中村又善, 玉井洋子, 上田 修, 野中正浩* * 環境保全課	第39回日本水環境学会(千葉市), 平成17年3月17日-19日
地下水へのリン酸イオンの高 濃度溶出に関する研究	石橋融子, 松尾 宏, 中村又善, 平田美由紀* * 九州大学	第39回日本水環境学会(千葉市), 平成17年3月17日-19日
博多湾におけるマクロベント スを考慮した水質解析	熊谷博史, 山崎惟義*1, 渡辺亮一*1, 藤田健一*2 *1 福岡大学 *2 九州環境管理協会	第41回環境工学研究フォーラム (宮崎市), 平成17年11月25日-26日
埋立廃棄物の理化学的性状と 微生物叢との関係	高橋浩司, 堀川和美, 世良暢之, 濱崎光宏, 石黒 靖尚, 土田大輔, 鳥羽峰樹, 永瀬 誠, 宇都宮彬	第15回廃棄物学会研究発表会(高 松市), 平成16年11月18日
焼却灰を原料に用いたレンガ の製造時における含有成分の 挙動	高橋浩司, 土田大輔, 鳥羽峰樹, 永瀬 誠, 宇都 宮彬, 小松夢子*1, 中野辰博*2, 田中 浩*2 *1 福岡県工業技術センター *2 荒木窯業	第15回廃棄物学会研究発表会(高 松市), 平成16年11月18日
安定型産業廃棄物処分場の水 量調査	高橋浩司, 土田大輔, 鳥羽峰樹, 永瀬 誠, 宇都 宮彬	全国環境研協議会企画部会 廃棄 物小委員会廃棄物研究発表会(千 代田区), 平成17年1月25日
ヒメドロムシ科に見られる短 翅型とその生息環境	緒方 健, 中島 淳* * 九州大学	日本陸水学会第69回大会(新潟 市), 平成16年9月18-20日
福岡県下の河川源流部の大型 底生動物相 - 酸性雨森林生態 系影響調査より -	緒方 健, 山崎正敏	第20回全国環境研究所交流シン ポジウム(つくば市), 平成17年2月16日
市民参加による湿原モニタリ ング調査 - 平尾台広谷湿原の 事例 -	須田隆一	第7回自然系調査研究機関連絡会 議(富士吉田市), 平成16年11月29日
計 (国内学会(全国))	27 件	

国内学会（地方）

演 題 名	発 表 者	学会名（場所），年月日
油症検診受診者データベースの構築について	片岡恭一郎，甲原隆矢，高山浩樹，小野塚大介，飯田隆雄，吉村健清，上ノ土武，古江増隆	第30回九州衛生環境技術協議会（熊本市），平成16年10月7日
EAST1産生大腸菌を原因とする食中毒事例	濱崎光宏，村上光一，堀川和美，長野英俊*，石黒靖尚 * 田川保健福祉環境事務所	九州衛生環境技術協議会（熊本市），平成16年10月7日
海面埋立て処分場土壌及び浸出水中の硫酸還元菌	堀川和美，濱崎光宏，高橋浩司，世良暢之，石黒靖尚，宇都宮彬，谷口初美* * 産業医科大学医学部	第57回日本細菌学会九州支部総会（福岡市），平成16年9月3日
<i>eaeA</i> 遺伝子を検出した大腸菌 O20による食中毒事例	村上光一，長野英俊* ¹ ，濱崎光宏，堀川和美，石黒靖尚，高田則子* ² ，梅崎誠治* ² * ¹ 田川保健福祉環境事務所 * ² 生活衛生課	第51回福岡県公衆衛生学会（福岡市），平成16年5月19日
甲状腺を含有する健康食品中の3,3',5-トリヨードチロニン及びチロキシンのHPLC分析法	森田邦正，毛利隆美，中川礼子	第30回九州衛生環境技術協議会（熊本市），平成16年10月7日
健康食品中のリオチロニンナトリウム及びレボチロキシナトリウムのHPLC分析法	森田邦正，毛利隆美，中川礼子	第30回九州衛生環境技術協議会（熊本市），平成16年10月7日
カゲロウの分布状況から見た福岡県下の河川	緒方 健，山崎正敏	第30回九州衛生環境技術協議会（熊本市），平成16年10月7-8日
北九州市における絶滅危惧種ガシャモクの生育状況と生育環境	真鍋 徹* ¹ ，須田隆一，大野睦子* ² ，笹尾敦子 * ¹ 北九州市立自然史・歴史博物館 * ² 水草研究会	日本生態学会九州地区第49回大会（福岡市），平成16年5月15日
絶滅危惧植物ガシャモクの生育状況と生育環境	須田隆一，真鍋 徹* ¹ ，大野睦子* ² ，笹尾敦子 * ¹ 北九州市立自然史・歴史博物館 * ² 水草研究会	第11回アクア研究センター研究発表会（北九州市），平成16年8月27日
計（国内学会（地方））	9 件	

(4) 報告書一覧

委託事業名	報告書名	執筆者	発行年月
平成16年度厚生労働科学研究費補助金 食品の安全性高度化推進研究事業	(分担研究報告書) 熱媒体の人体影響とその治療法等に関する研究(総括)	吉村健清,金子 聡*,高山浩樹, 片岡恭一郎,小野塚大介 * 国立がんセンター	平成17年3月
平成16年度厚生労働科学研究費補助金 食品の安全性高度化推進研究事業	(分担研究報告書) 熱媒体の人体影響とその治療法等に関する研究 - 油症一斉検診の全国集計結果及び油症患者データベースの構築 -	片岡恭一郎,小野塚大介,高尾佳子,高山浩樹	平成17年3月
環境省委託業務	平成16年度化学物質環境実態調査(初期環境調査)報告書	北 直子,安武大輔,飛石和夫, 大野健治,松枝隆彦,桜木建治, 柳川正男,岩本眞二,井上尊行*, 下濱正承* * 環境保全課	平成17年3月
	平成16年度化学物質環境実態調査(暴露量調査)報告書	北 直子,安武大輔,飛石和夫, 大野健治,松枝隆彦,桜木建治, 井上尊行*,下濱正承* * 環境保全課	平成17年3月
	平成16年度化学物質環境実態調査(モニタリング調査)報告書	北 直子,安武大輔,飛石和夫, 大野健治,松枝隆彦,桜木建治, 井上尊行*,下濱正承* * 環境保全課	平成17年3月
厚生労働科学研究補助金 がん予防等健康科学総合研究事業	温泉・公衆浴場,その他の温水環境におけるアメーバ性髄膜炎の病原体 <i>Naegleria fowleri</i> の疫学と病原性発現に関する研究 報告書	遠藤卓郎*(主任研究者) 村上光一 他 * 国立感染症研究所	平成16年4月
平成15年度廃棄物処理等科学研究事業	(総括・分担研究報告書) 廃棄物処分場のバイオ評価に関する研究(廃棄物処分場等の土壌の理化学試験)	谷口初美*(代表研究者) 高橋浩司,土田大輔,鳥羽峰樹, 永瀬 誠,宇都宮彬,石黒靖尚, 堀川和美,世良暢之,濱崎光宏 * 産業医科大学	平成16年5月
	(総括・分担研究報告書) 廃棄物処分場のバイオ評価に関する研究(硫酸還元菌の培養)	谷口初美*(代表研究者) 堀川和美,濱崎光宏,世良暢之, 高橋浩司,石黒靖尚,宇都宮彬 * 産業医科大学	平成16年5月

委託事業名	報告書名	執筆者	発行年月
平成15年度廃棄物処理等科学研究事業	(総括・分担研究報告書) 廃棄物処分場のバイオ評価に関する研究(メタン生成菌の培養)	谷口初美* (代表研究者) 世良暢之, 高橋浩司, 濱崎光宏, 堀川和美, 千々和勝己, 石黒靖尚, 永瀬 誠, 宇都宮彬 * 産業医科大学	平成16年5月
	(総括・分担研究報告書) 廃棄物処分場のバイオ評価に関する研究(嫌気性細菌の16SrDNA 塩基配列決定による微生物群集解析)	谷口初美* (代表研究者) 濱崎光宏, 堀川和美, 世良暢之, 高橋浩司, 石黒靖尚, 宇都宮彬 * 産業医科大学	平成16年5月
平成16年度厚生科学研究費補助金 食品の安全性高度化推進研究事業	(総括・分担研究報告書) 容器包装詰低酸性食品のボツリヌス食中毒に対するリスク評価	小熊恵二* (主任研究者), 堀川和美, 濱崎光宏, 村上光一, 野田多美枝, 石黒靖尚他 * 岡山大学	平成17年3月
平成14-16年度厚生科学研究費補助金 食品の安全性高度化推進研究事業	(総括・分担研究報告書) 容器包装詰低酸性食品のボツリヌス食中毒に対するリスク評価	小熊恵二* (主任研究者), 堀川和美, 濱崎光宏, 村上光一, 野田多美枝, 竹中重幸, 石黒靖尚他 * 岡山大学	平成17年3月
平成16年度福岡県リサイクル総合研究センター研究会	「環境に優しい紙おむつ開発研究」報告書	石橋哲也, 江藤良樹, 世良暢之, 千々和勝己, 村上光一, 野田多美枝, 濱崎光宏, 竹中重幸, 堀川和美, 石黒靖尚	平成17年3月
平成15年度厚生労働科学研究費補助金 食品安全確保研究事業	(平成15年度総括・分担研究報告書) 食品中臭素化ダイオキシン及びその関連化合物質の汚染実態の解明に関する研究	中川礼子, 芦塚由紀, 堀 就英, 飛石和大, 飯田隆雄	平成16年3月
	(平成13-15年度総合研究報告書) 食品中臭素化ダイオキシン及びその関連化合物質の汚染実態の解明に関する研究	中川礼子, 芦塚由紀, 堀 就英, 飛石和大, 飯田隆雄	平成16年3月
	(研究報告書) ダイオキシンの汚染実態把握及び摂取低減化に関する研究	佐々木久美子*, 米谷民雄*, 飯田隆雄, 堤 智昭*, 天倉吉章* * 国立医薬品食品衛生研究所	平成16年12月

委託事業名	報告書名	執筆者	発行年月
平成15年度厚生労働科学研究費補助金 食品安全確保研究事業	(平成13-15年度総合研究報告書) ダイオキシンの汚染実態把握及び摂取低減化に関する研究	豊田正武*, 佐々木久美子*, 米谷民雄*, 堤 智昭*, 天倉吉章*, 飯田隆雄 * 国立医薬品食品衛生研究所	平成17年1月
	(熱媒体に関する研究・分担研究報告書) 油症患者血中 PCB 等追跡調査における分析法の改良およびその評価に関する研究	飯田隆雄, 中川礼子, 芦塚由紀, 堀 就英, 片岡恭一郎	平成16年5月
平成16年度厚生労働科学研究費補助金 食品の安全性高度化推進研究事業	(熱媒体の人体影響とその治療法に関する研究 平成16年度総括・分担研究報告書) 油症患者および健常体内の PCDF 類実態調査	飯田隆雄, 中川礼子, 片岡恭一郎, 松枝隆彦, 平川博仙, 堀 就英, 飛石和太, 芦塚由紀, 小野塚大介, 戸高 尊* * 日本食品衛生協会	平成17年3月
	(熱媒体の人体影響とその治療法に関する研究 平成16年度総括・分担研究報告書) ゲル浸透クロマトグラフィー(GPC)及び高分解能ガスクロマトグラフィー/高分解能質量分析法(HRGC/HRMS)による油症患者の血中 PCB 同族体分離分析	飯田隆雄, 中川礼子, 片岡恭一郎, 松枝隆彦, 平川博仙, 堀 就英, 飛石和太, 芦塚由紀, 小野塚大介, 戸高 尊* * 日本食品衛生協会	平成17年3月
平成16年度厚生労働科学研究費補助金 健康安全確保総合研究 化学物質リスク研究事業	(前向きコホート研究による先天異常モニタリング, 特に尿道下裂, 停留精巣のリスク要因と内分泌かく乱物質に対する感受性の解明 分担研究報告書) 妊婦(200人)の血中 PCDDs, PCDFs, ノンオルソ Co-PCBs およびモノオルソ Co-PCBs 濃度(2003-2004年)	飯田隆雄, 中川礼子, 松枝隆彦, 平川博仙, 堀 就英, 飛石和太, 芦塚由紀, 戸高 尊* * 日本食品衛生協会	平成17年3月
	(内分泌かく乱物質・ダイオキシン類の小児, 成人の汚染実態及び暴露に関する調査研究 平成14年-16年総合分担研究報告書)	山田健人* ¹ , 飯田隆雄, 戸高 尊* ² , 平川博仙, 中川礼子, 松枝隆彦, 堀 就英, 飛石和太 * ¹ 慶應義塾大学 * ² 日本食品衛生協会	平成17年3月

委託事業名	報告書名	執筆者	発行年月
平成16年度厚生労働科学研究費補助金 健康安全確保総合研究 化学物質リスク研究事業	(内分泌かく乱物質・ダイオキシン類の小児, 成人の汚染実態及び暴露に関する調査研究 平成16年度分担研究報告書) ヒト剖検試料中のダイオキシン類 (PCDD/DFs , Non-ortho-PCBs , Mono-ortho-PCBs) 調査	飯田隆雄, 戸高 尊*, 平川博仙, 中川礼子, 松枝隆彦, 堀 就英, 飛石和大 * 日本食品衛生協会	平成17年3月
平成16年度厚生労働省委嘱事業	医療用医薬品の品質再評価に係る公的溶出試験(案)の妥当性検証等報告書(平成16年度)	毛利隆美, 森田邦正, 中川礼子, 飯田隆雄	平成17年3月
2002年~2003年日韓海峡沿岸県市道環境技術交流事業	日韓都市間大気汚染度比較評価報告書	日韓海峡沿岸県市道環境技術交流会議(大石興弘)	平成16年12月
2002年~2003年日韓海峡沿岸県市道環境技術交流事業	九州北部3県及び山口県における浮遊粒子状物質成分調査報告書	日韓海峡沿岸県市道環境技術交流会議(大石興弘)	平成16年12月
平成15年度環境放射能水準事業	第46回環境放射能調査研究成果論文抄録集(平成15年度)	文部科学省(田上四郎, 櫻井利彦, 岩本眞二)	平成16年12月
2003年度公害健康被害補償予防協会	高活性炭素繊維を用いた沿道排ガス削減技術に関する調査報告書	福岡県(下原孝章)	平成16年3月
平成16年度厚生労働科学研究費補助金 健康科学総合研究事業	全国規模の疫学研究によるシックハウスの実態と原因の解明 北九州におけるシックハウス症候群の実態調査	力 寿雄, 岩本眞二, 吉村健清	平成16年3月
平成16年度厚生労働科学研究費補助金 厚生労働科学特別研究事業	室内空気質の健康影響に係る医学的知見の整理 シックハウス症候群の自覚症状と要因について	力 寿雄, 岩本眞二, 吉村健清	平成16年3月
有明海流域汚濁負荷対策調査	有明海流域における汚濁負荷量把握調査報告書	田中義人, 熊谷博史, 松尾 宏, 中村又善	平成17年2月
有明海流域汚濁負荷対策調査	有明海流域負荷量対策調査: 降雨時調査報告書	田中義人, 熊谷博史, 松尾宏, 中村又善	平成17年3月
生活排水対策事業	彦山川流域生活排水対策推進計画	石橋融子, 榎崎幸範, 緒方 健, 須田隆一	平成16年3月

委託事業名	報告書名	執筆者	発行年月
瀬戸内海環境情報基本調査	平成15年度環境省委託業務結果報告書 瀬戸内海環境情報基本調査 - 大阪湾・広島湾・伊予灘・響灘 - (資料編)	熊谷博史, 永淵義孝, 中村又善	平成16年3月
平成16年度福岡県リサイクル総合研究センター研究会	「焼却灰ペレットの資源化研究」報告書	石橋融子, 榎崎幸範	平成17年3月
平成16年度福岡県リサイクル総合研究センター共同研究プロジェクト	「都市ゴミ焼却灰を活用したエコレンガ製造技術の開発プロジェクト研究に係る安全性試験業務」報告書	宇都宮彬, 永瀬 誠, 黒川陽一, 鳥羽峰樹, 高橋浩司, 土田大輔	平成17年3月
平成16年度福岡県リサイクル総合研究センター研究会	「環境持続型の焼却残渣循環資源化研究」報告書	永瀬 誠, 黒川陽一, 鳥羽峰樹, 高橋浩司, 土田大輔	平成17年3月
平成16年度福岡県リサイクル総合研究センター研究会	「環境共生型下水污泥処理・利用システムの構築に関する研究」報告書	永瀬 誠, 黒川陽一, 鳥羽峰樹, 高橋浩司, 土田大輔	平成17年3月
環境省委託業務	平成16年度環境省委託業務結果報告書 酸性雨モニタリング(土壌・植生)調査	須田隆一, 山崎正敏	平成17年3月
環境省委託業務	第6回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査種の多様性調査(福岡県)報告書	須田隆一, 緒方 健, 中村朋史, 山崎正敏, 松尾 宏, 松井誠 ^{*1} , 中島 淳 ^{*1} , 鬼倉徳雄 ^{*1} , 宇都宮靖士 ^{*1} , 木原直人 ^{*2} , 吉田 功 ^{*2} *1 九州大学 *2 日本野鳥の会筑後支部	平成17年3月
計(報告書一覧)		40 件	